

# 愛知特別支援教育研究会会報 第12号

事務局：愛知県立大学 田中良三研究室 〒480-1198 愛知県長久手市茨ヶ廻間1522-3  
☎ 0561-76-8713 [tanaka@ews.aichi-pu.ac.jp](mailto:tanaka@ews.aichi-pu.ac.jp)

## ～ フォーラム 特別支援教育 IN AICHI ～

「フォーラム 特別支援教育 IN AICHI」が11月18日（日）ウインクあいちに於いて、「通常学級の特別支援教育の在り方～学級経営・授業のユニバーサルデザイン～」をテーマに開催されました。

午前中は、植草学園短期大学の漆澤先生を講師にお招きし、通常学級における特別支援教育についてお話をいただきました。午後からは、漆澤先生を指定討論者に迎え、石川先生、松井先生、古田島先生の話題提供をもとにシンポジウムが行われました。

### ★ 漆澤 恭子先生の講演会

「どの子どもその子らしく、一人一人違っていい。ともだちの違いを受け容れる心を育てたい。」という考えのもと、失敗しても、安心して支援が受けられる（空気のような支援が満ちている）支持的風土のある学級づくりが大切と、特別支援教育を念頭に置いた通常学級での、「学級を育てる」具体的な実践をお話くださいました。

#### < 子どもたちにやさしい授業づくりのために >

- 1 意欲が持てる工夫
- 2 互いに学び合う機会の設定
- 3 分かるための時間の保障
- 4 授業の土台作り
- 5 より深い個への支援
- 6 学習したことが利用できる授業
- 7 教材研究 (パワーポイントから)

人によって、助けてもらうことも、助けてもらうときも違っていい、助けがもらいたいときには、いつでももらえることを学級の子どもたちみんなに分かってもらえるような「台さがし」のお話、苦手なこと得意なことを補い合い、力を合わせることを学ぶ「いっかしっぽとり」のお話、一人一人を大切にする「だれにだっておめでとう」のお話など、すぐにもそれぞれの学級で実践してみたくなるものばかりでした。



(早速、私も、担当している子どもたちの誕生日に、紙粘土と空き缶でケーキを作り、ろうそくを立てて火をつけ、フーッと消してもらい、お祝いをしました。はじけるような笑顔が返ってきました。)

特別支援教育は、本に書いてあるようにきれいに進んでいかないこともたくさんあるけれど、断固として毅然と、手本を示し、根気強く、定着させていかなければいけないと話されました。

漆澤先生の「**厳しいけれど冷たくはない、温かいけれど甘くはない教師**」という言葉が印象に残りました。

## ★ シンポジウム

司 会	田中 良三 (愛知県立大学)
指定討論	漆澤 恭子 (植草学園短期大学)
話題提供①	安城市立志貴小学校 石川 和幸
話題提供②	美浜町立河和中学校 松井 京子
話題提供③	長岡市立大島小学校 古田島 恵津子



石川先生は、様々な課題を抱えた子どもたちがたくさんいる小学校3年生の学級で、それぞれに指導目標を立て、手立てを考え実践された様子を報告されました。

松井先生は、クラスに特別な支援が必要な生徒たちが存在する、中学校英語科のユニバーサルデザインを意識した取り組みについて報告されました。

古田島先生は、新潟県長岡市からきていただきました。「授業のユニバーサルデザイン化を目指したチェックリストを用いた校内研修会」について、どのように進めていくのか、作成の経緯、研修会の概要、効果と課題について報告されました。「教師用授業改善チェックリスト」や「授業振り返りシート」も実際に提示していただき大変参考になりました。



石川 和幸 先生



松井 京子 先生



古田島 恵津子 先生

会場からも、他の先生方に広めていくにはどうしたらよいかなど質問や意見交換などがなされました。

特別支援教育が始まって6年目になります。通常学級での取り組みについては、支援の必要な児童、生徒の個別的な対応について(特性や理解など)話し合われてきました。特別な支援を必要とする子には、「ないと困る」支援が、どの子にも「あると便利」な支援になります。今回のフォーラムでは、特別支援教育の視点を生かして、一人一人が活躍できる学級経営、誰もが分かりやすい授業づくりを考えるよい機会となったのではないかと思います。

